

この本 よんだよ どの本 よもうか

読んであげたい4歳からのえほん

よんだ？



も く じ



おはなしのえほん…………… 2

かがくのえほん…………… 7

むかしばなしのえほん…………… 8

ことばのえほん…………… 10

^し
字のないえほん…………… 11

ちょっとながいおはなし…………… 12



この冊子の使い方

- 種類別、書名順に紹介しています。
- 対象年齢はあくまでも目安です。
- 「シリーズあり」と表記されているものは、シリーズの本があります。



本を読んだら、「よんだしるし」の
ところに色をぬってね。



おはなしのえほん

物語の絵本です。子どもたちは、絵本の中に入り込んで、主人公と一緒に
おはなしの世界を楽しめます。

『アンガスとねこ』



マージョリー・フラック／さく・え 瀬田貞二／やく
福音館書店

子犬のアンガスは知りたがりや。ある日、ねこに興味を持って追いかけますが、届かないところへ逃げられてしまいます。ついにアンガスは寝室へ追い込みましたが、ねこはいなくなっていました。いったいどこへ行ったのでしょうか。

※シリーズあり

『おばけがぞろぞろ』



ささきまき／作
福音館書店

おばけのぞぞまるちゃんが、木のうろからびろ〜んと出てきて、友達のものりくんを誘いにいきます。おかしな名前のおばけたちが、あっと驚く場所からぞろぞろ登場。子どもたちは、次はどこから出てくるだろうと予想し、楽しめます。

『おふろだいすき』



松岡享子／作 林明子／絵
福音館書店

おふろが大好きな男の子があひるのプッカとおふろに入りました。するとお湯の中から、かめやペンギン、オットセイが出てきました。次は誰が出てくるでしょうか。読んであげると、日常の世界から空想の世界へ自然に入り込めます。

『かいじゅうたちのいるところ』



モーリス・センダック／さく じんぐうてるお／やく
富山房

ある晩、マックスは大暴れして、お母さんに寝室へ放り込まれました。すると波が船を運んできて、たどり着いたのは怪獣たちのいるところ。マックスは、怪獣たちとも大暴れしているうちに優しい誰かさんのところへ帰りたくなり…。

『ガンピーさんのふなあそび』



ジョン・バーニング／さく みつよしなつや／やく
ほるぶ出版

ガンピーさんが舟で川に出かけると、子どもやウサギ、ネコや、ブタまで乗りたがります。「静かに乗るならいいよ」と乗せてあげましたが、みんなだんだんと騒ぎ出します。淡い色合いが美しい絵本。子どもたちは乗客が増えていくのを面白がります。

※シリーズあり

『きみなんかだいきらいさ』



ジャンヌ・メイ・ユードリー／ぶん
モーリス・センダック／え こだまともこ／やく
富山房

ジェームズとぼくは大の仲良し。でもジェームズはいばりやだし、砂をなげるからぼくは大嫌いになります。そこで「もうともだちになってやらない」と言いに行きました。子どものけんかや仲直りの心の変化を、シンプルな絵と文がゆかいに伝えています。

『ぐりとぐら』



ながわりえこ／さく おおむらゆりこ／え
福音館書店



のねすみのぐりとぐらは、お料理すること食べることが大好き。森に大きなたまごが落ちていたので、カステラを焼くことにしました。できあがったカステラのおいしそうなこと。いいにおいにつられて動物たちが集まってきました。

※シリーズあり

『こすすめのぼうけん』



ルース・エインズワース／作
石井桃子／訳 堀内誠一／画
福音館書店



お母さんに飛び方を教えてもらったこすすめは、生まれて初めて巣を離れてひとりで飛んでいきました。遠くまで飛びすぎたこすすめは、休ませてもらおうと他の鳥の巣をたずねますが、次々と断られてしまいます。子どもたちは、こすすめと一緒に冒険を楽しみます。

『だるまちゃんとてんぐちゃん』

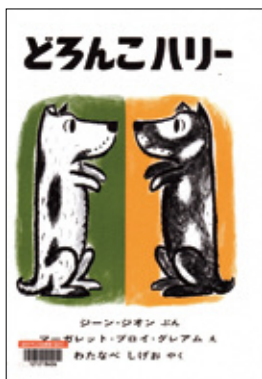


加古里子／さく・え
福音館書店



友達のとてんぐちゃんの持っているものをなんでも欲しくなってしまうだるまちゃん。その願いを叶えようとお父さんのだるまどんが、たくさんものを用意しますが、欲しいものとは少し違います。だるまちゃんが自分でみつけたものは…。

※シリーズあり



『どろんこハリー』



ジーン・ジオン／ぶん
マーガレット・ブロイ・グレアム／え
わたなべしげお／やく 福音館書店

ハリーは黒いぶちのある白い犬。お風呂が嫌で外に逃げ出し、あちこちで遊んで白いぶちのある黒い犬になってしまいました。家に帰っても誰にもハリーだと気づいてもらえません。子どもはどろんこになって遊ぶハリーに共感し、幸せな結末に満足します。

※シリーズあり



『ピーターラビットのおはなし』



ビアトリクス・ポター／さく・え
いいいものこ／やく 福音館書店

4ひきの子うさぎは、お母さんからおひやくしょうのマクレガーさんの畑だけは行ってはいけないと言われていました。しかし、いたずらなピーターは畑に行ってしまう。子どもたちはピーターと一緒にハラハラドキドキすることでしょう。

※シリーズあり



『ふしぎなナイフ』



中村牧江／さく 林健造／さく
福田隆義／え 福音館書店

テーブルの上に置いてある一本のナイフ。ふつうのナイフに見えるけれど、実はふしぎなナイフです。ナイフがまがる?おれる?ほどける?予想もできない変化をしていきます。最後には一体どうなるのでしょうか?思わず「ありえない」と叫びたくなる一冊です。

『ゆきのひ』



エズラ＝ジャック＝キーツ／ぶん・え
きじまはじめ／やく 偕成社

ある日、ピーターが目をさますと雪が積もっていました。足跡をつけたり、ゆきだるまを作ったり、雪の山からすべりおりたりして遊びます。最後にかたい雪だんごを作って、ポケットにしまいますが…。雪遊びの喜びが伝わってきます。

※シリーズあり

『わゴムはどのくらいのびるかしら?』



マイク・サーラー／ぶん ジェリー・ジョイナー／え
きしだえりこ／やく ほるぷ出版

坊やは、わゴムがどのくらい伸びるかためしてみたくまりました。わゴムをベッドの枠にひっかけて外へ出発です。自転車に乗って、バスに乗って、砂漠へ行ったらクダに乗って…。わゴムはいったいどこまで伸びていくのでしょうか?

そのほかのおすすめえほん

書 名 (50 音順)	著 者	出版社
おかあさんだいすき	まーじよりー・ふらつく／文と絵 光吉夏弥／訳・編	岩波書店
おなかのすくさんぽ	かたやまけん／作	福音館書店
からすのばんやさん	かこさとし／作・絵	偕成社
くまのコールテンくん	ドン＝フリーマン／さく まつおかきょうこ／やく	偕成社
ぐるんぱのようちえん	西内ミナミ／さく 堀内誠一／え	福音館書店
3びきのくま	トルストイ／ぶん バスネツォフ／え おがさわらとよき／やく	福音館書店
しょうぼうじどうしゃじぶた	渡辺茂男／さく 山本忠敬／え	福音館書店
ちいさなヒッポ	マーシャ＝ブラウン／さく うちだりさこ／やく	偕成社
はろるとむらさきのくれよん	クロケット・ジョンソン／作 岸田衿子／訳	文化出版局
ひとまねこざるときいろいぼうし	H.A.レイ／文・絵 光吉夏弥／訳	岩波書店
めっきらもっきらどおんどん	長谷川摂子／作 ふりやなな／画	福音館書店
もりのなか	マリー・ホール・エッツ／ぶん・え まさきるりこ／やく	福音館書店

かがくのえほん

身近な物事を子どもたちにわかりやすく、また興味を持つよう描かれています。読み終わったら、実際にやってみたくなる絵本もあります。



『てとゆび』



堀内誠一／ぶん・え 福音館書店

てとゆびは毎日使う体の一部。普段意識していないけれど「親指を使わないでボタンはとめられない」「左手と右手はぴったりくっつく」など、思わずやってみたくなるすごいてとゆびのはたらきがわかります。



『びっくりまつぼっくり』



多田多恵子／ぶん 堀川理万子／え 福音館書店

まつぼっくりはとっても不思議。上から見ると花びらみたいだし、種はくるくる回って落ちていく。雨の日は小さなしょんぼりまつぼっくりに変身!まつぼっくりの変化をストーリー仕立てで紹介します。挑戦したくなるびっくり手品ものっていますよ。



『やさいのおなか』



きうちかつ／さく・え 福音館書店

「これなあに」問いかけの後には不思議な形。ページをめくると形に色がつき、野菜の絵が現れます。不思議な形は野菜の断面図。ねぎ、ピーマン、ニンジンなどの「おなか」から答えを予想しましょう。

※シリーズあり

そのほかのおすすめえほん

書 名 (50 音順)	著 者	出版社
かぜフーホッポ	三宮麻由子／ぶん 斉藤俊行／え	福音館書店
くものいえ	得田之久／さく	童心社
どろだんご	たなかよしゆき／ぶん のさか ゆうさく／え	福音館書店

むかしばなしのえほん

絵本がなかった時代から、長い間語り継がれてきた昔話には、子どもの心を深くとらえるものが数多くあります。



『おだんごばん』（ロシアの昔話）



せたていじ／やく わきたかず／え
福音館書店

おじいさんにたのまれて、おばあさんは粉をあつめておだんごばんを作りました。食べられたくないおだんごばんはころころ転がって家を飛び出します。うさぎやおおかみたちが食べようとすると楽しい歌を聞かせて逃れます。歌いながら読むのもおすすめです。



『ねずみのすもう』（日本の昔話）



神沢利子／文 赤羽末吉／絵
偕成社

貧乏なおじいさんが山へしばかりに出かけると、どこからか「でんかしょ でんかしょ」というかけ声が。声のする方をのぞくと、おじいさんの家のやせねずみと太ったねずみがすもうをとっていました。親しみやすい絵と飾らない語り口が子どもを惹きつけます。



『三びきのこぶた』（イギリス昔話）



瀬田貞二／やく 山田三郎／え
福音館書店

三びきのこぶたは、家を出て自分たちで暮らすことになりました。わらや木の家を建てたこぶたはおおかみに食べられてしまいますが、レンガの家を建てたこぶたは知恵を使って生きのびます。イギリスで昔から伝わってきた話を忠実に訳しています。

『だいくとおにろく』（日本の昔話）



松居直／再話 赤羽末吉／画
福音館書店

腕のいい大工が、流れの速い川に橋をかけるように頼まれました。悩んでいると鬼が現れ、目玉と交換に橋をかけてやると言われます。橋ができあがったものの、目玉を渡したくない大工は…。白黒とカラーで交互に描かれた水墨画風の絵が迫力満点。

『あかずきん』



グリム／作 大塚勇三／やく 堀内誠一／え
福音館書店

おばあさんのお見舞いに出かけた赤ずきんは、おおかみにそそのかされて寄り道をします。先回りでおばあさんを飲み込んだおおかみが、あかずきんも食べようと待っていると、あかずきんがやってきました。二人のやり取りや鮮やかな絵が、子どもたちをひきつけます。

『おおかみと七ひきのこやぎ』



グリム／作 フェリクス・ホフマン／絵
せたていじ／訳 福音館書店

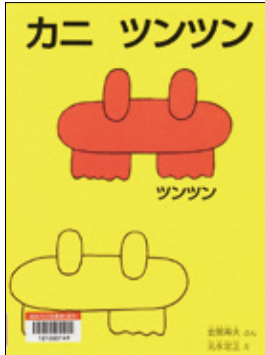
お母さんやぎの留守中、こやぎだけの家におおかみがやってきました。こやぎたちは、お母さんに教えられたとおり、おおかみを中に入れませんでした。三回目にやってきたとき…。ヨーロッパの風物を描いた深みのある絵が、グリムの昔話の世界を正しく伝えます。

そのほかのおすすめえほん

書 名 (50 音順)	著 者	出版社
こがねのあしのひよこ (アルゼンチン民話)	秋野ゆきこ／再話・絵	福音館書店
ずいとんさん (日本の昔話)	日野十成／再話 斎藤隆夫／絵	福音館書店

ことばのえほん

わらべうた、ことばあそび、なぞなぞの絵本です。お子さんと一緒に声に出して楽しんでください。



『カニツンツン』

金関寿夫／ぶん 元永定正／え
福音館書店



「カニ ツンツン ビイ ツンツン」「トチチリツン トチチリツン」声に出して読みたくなる言葉は作者の創作だけでなく、アイヌ語などの言語が組み合わさって出来たもの。不思議な形と鮮やかな色があふれる絵本。言葉の由来ページも読みごたえがあります。



『これはのみのぴこ』

谷川俊太郎／作 和田誠／絵
サンリード



「これは のみの ぴこ」「これは のみの ぴこの すんでいる ねこの こえもん」ページをめくるとに言葉がどんどん増えていき、最後はどうなるのでしょうか。早口になってみたり一息でどこまで読めるか挑戦してみたり、遊び方無限大です。

そのほかのおすすめえほん

書 名 (50 音順)	著 者	出版社
これはおひさま	谷川俊太郎／ぶん 大橋歩／え	復刊ドットコム
わらべうた	ましませつこ／え	福音館書店

じ 字のないえほん

文字がなく、絵だけで描かれた絵本です。自由にお話ししながら楽しんでください。



『もりのえほん』

安野光雅／作 福音館書店



緑豊かな森へ散歩に出かけましょう。小道に沿って歩きながら辺りを見回していると、次第に目が慣れ、写実的な木々の絵の中に巧みに隠された鳥や動物たちの姿が浮かび上がってきます。一度にすべて探せなくても大丈夫。何回でも楽しめる絵本です。



『はるにれ』

姉崎一馬／写真 福音館書店



草原に一本のはるにれの木が立っています。吹雪に耐え、枝が真っ白になりながら雪原にたたずむはるにれ。やがて春になり、葉を繁らせます。一本の大木の四季、様々な時間を撮影した写真で構成されています。自然の厳しさとやすらぎを感じられます。

そのほかのおすすめえほん

書 名 (50 音順)	著 者	出版社
えんにち	五十嵐豊子／さく	福音館書店
おみせ	五十嵐豊子／え	福音館書店
おふろやさん	西村繁男／作	福音館書店
木のうた	イエラ・マリ／さく	ほるぷ出版

絵本の次に読んであげたい本です。毎日、少しずつ読んであげること
で、絵本から童話への橋渡しをスムーズにしてくれます。



『くぐまのくまくん』



E・H・ミナリク／ぶん モーリス・センダック／え
まつおかきょうこ／やく 福音館書店

雪が降って寒くて、「なにか着るものがほしい」というくぐまのくまくんに、お母さんぐまは、ぼうし、オーバー、ズボンを次々にごしらえます。加えて、「毛皮がほしい」というくまくんに、お母さんは着せた服を全て脱がせ、「ほうら、毛皮のマントならここにありますよ」と言いました。“くまくんとけがわのマント”など、やさしい内容の短いお話が4話入っています。どのお話も、お母さんぐまのくまくんへのまなざしが温かく、小さい子に読んであげたい物語です。センダックの絵も繊細で美しく、くまくんの姿を情愛豊かに描いています。

※シリーズあり

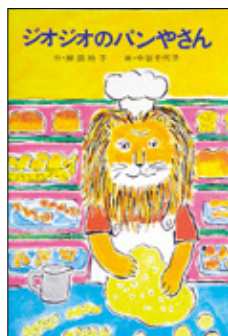


『ざりがにのおうさままっかちん』



おおもとやすお／さく 福音館書店

ざりがにのことをまっかちんと呼んでいる保育園の子ども達は、まっかちんつりが大好きです。みんながつれる中、のぞみはまだ一匹もつたことがありません。「まっかちんの王さまをつるんですからねー」というのぞみ。練習のかいあって、ちいさなちいさなまっかちんをつりましたが池に返しました。その後、大雨が降り稲妻が光る中で、つぼをつりあげました。つぼの中からは、何匹ものまっかちんがでてきて、最後にでてきたのがまっかちんの王さまだったのです。先生や友達の応援、あきらめずにがんばったのぞみ、まっかちんの描き方がおもしろい本です。



『ジオジオのパンやさん』



岸田 稔子／作 中谷千代子／画 あかね書房

らいおんのジオジオはパンやさんです。パンを買いに行くと、りすのぼうやにはひこうきパン、くまの子にはおさかなパン、カンガルーの子どもにはコナッツパンとお客さんにぴったりのおまけをつけてくれます。ある時、旅の途中のみずばらしいロバにチーズパンをあげると、ロバはギターを弾きはじめました。その楽しい曲に動物たちが集まり、歌ったり踊ったりします。そこでジオジオはロバと一緒にパンやの横に喫茶店を作ることになりました。ジオジオの焼くパンはおいしそうで、ジオジオのやさしさが伝わる本です。



『ちよびひげらいおん』

長新太／作・絵 あかね書房

すごくながーいひげのらいおんが、ある日、昼寝をしていると、ヘビがひげを食べ始めてしまいました！ひげに食いついたまま離れないヘビのせいで食事でもできないらいおん。やっとヘビがはなれると、やせて軽くなったらいおんは強い風に飛ばされてしまいます。ながーいひげのおかげで、大変な目にあってばかりなので、らいおんは、ゴリラの床屋さんにひげをちょびひげにしてもらいました。奇想天外なストーリーと勢いのあるイラストで、次はどうなるのかと楽しみながらページをめくられる、ナンセンスユーモアたっぷりのお話です。



『はじめてのキャンプ』

林明子／さく・え 福音館書店

ちっちゃな女の子のなほちゃんが、隣のともこお婆さんと年上の4人の子どもたちと一緒に、初めてキャンプに行くことになりました。なほちゃんは、大きな子たちとした、「重い荷物を持つ」「泣かない」などの約束を頑張って守りました。ともこお婆さんとした、「夜、ひとりでおしっこにいく」という約束も、しっかりと守り、お婆さんに褒めてもらいました。子どもののびやかな成長ぶりや、一生懸命さが微笑ましく、共感と喜びを覚えるお話です。小さな子どもへの、キャンプの入門書としてもおすすめです。



『ふらいばんじいさん』

神沢利子／作 堀内誠一／絵 あかね書房

ふらいばんじいさんは、たまごを焼くのが大好きなフライパンです。ところがその役目を新しい目玉焼きなべに取られてしまい、台所を飛び出して広い世界へ旅に出ます。ジャングルを抜けて砂漠を歩き大海原で波にもまれて、とうとう小さな島に打ち上げられ動けなくなってしまいます。ふらいばんじいさんは小鳥たちに運ばれお日さまに近い木の梢で巣になり、次々とたまごをかえす小鳥たちのおじいさんになりました。ふらいばんじいさんが未知の世界でいろいろ体験することに子どもたちは共感し、旅を楽しみ、満ちた気持ちでいっぱいになるでしょう。



『ぼく、ひとりでいけるよ』

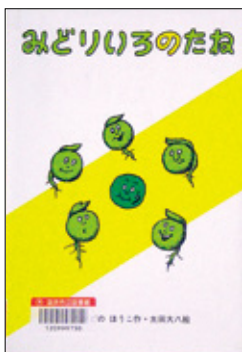


リリアン＝ムーア／作 ジョーヤ＝フィアメンギ／絵
神宮輝夫／訳 偕成社

小さいけれど勇敢なアライグマの子、リトル・ラクーンは、生まれて初めて夕ごはんのザリガニをとりに、ひとりでおつかいに出かけます。満月の光を頼りにちよっと歩いてちよっと走ってときどきスキップをしていくと、小川に着きました。しかし、水に写った“水の中のあいづ”（本当は自分の姿なのですが）に怯え、お母さんのところに逃げ帰ります。お母さんから知恵を借りて再び小川へ戻り、今度はザリガニをたくさん捕まえることができました。幼い子の健気さ、お母さんの温かさが伝わってくるお話です。

※シリーズあり

『みどりいろのたね』



たかどのほうこ／作 太田大八／絵 福音館書店

まあちゃんは、えんどう豆のたねと一緒になめていたメロンあめも畑に埋めてしまいます。土の中で芽と根が出てきた種たちは、何も出ないメロンあめを「つまらないやつ」とばかにします。「つまらんかなどうかなめてみる」とメロンあめにキッパリいわれた種たちは、悩んだ挙句メロンあめをペロリ。あまりのおいしさにすっかりなめてしまいます。メロンあめのおかげで種たちは、無事、さやをつけますが、そのえんどう豆の味はまだメロンあめのようなでした。豆とメロンあめのやりとりが絵と会話でもおもしろく描かれています。自分の埋めた豆がいつのまにかメロンあめのようにおいしく育ち、満足を得られるお話です。きっと種と一緒にあめを埋めてみたくなりますよ。

『もりのへなそうる』



わたなべしげお／さく やまわきゆりこ／え
福音館書店

5歳のでつた君と3歳のみつや君は、仲の良い兄弟です。二人は探検に出かけた森で、へんな怪獣に会います。くいしんぼうで少し臆病ですが、優しい怪獣「へなそうる」です。二人は、仲良くなった「へなそうる」と、ぎっこんばっこんをしたり、かくれんぼをししたりして、暗くなるのを忘れて楽しく遊びます。兄弟で遊ぶ楽しさと怪獣と遊ぶ（空想の世界の）楽しさが、シンプルで温かみのある絵からも伝わります。みつや君の、お兄ちゃんの言葉を真似しているつもりの「言葉のとり違え」も、この話を楽しくしています。

袋井市の図書館のご案内



▲詳しくは
こちらから

○袋井図書館

高尾町19-1 TEL.42-5325

●開館時間

火・金・土・日曜日 / 9:30~17:30
水・木曜日 / 9:30~19:00

●休館日

月曜日・館内整理日
年末年始・特別整理期間・3/31
*休館日は図書館カレンダーでご確認ください。

○月見の里学遊館図書館分室

上山梨4丁目3-7 TEL.49-3402

●開館時間

金~火曜日 / 9:00~17:30
水曜日 / 9:00~19:00

●休館日

木曜日・館内整理日
年末年始・特別整理期間・3/31
*休館日は図書館カレンダーでご確認ください。

○浅羽図書館

浅名976-1 TEL.23-6801

●開館時間

火・水・木・土・日曜日 / 9:30~17:30
金曜日 / 9:30~19:00

●休館日

月曜日・館内整理日
年末年始・特別整理期間・3/31
*休館日は図書館カレンダーでご確認ください。

おはなし会

図書館では、3歳くらいから小学校3年生向けに絵本の読み聞かせを行っています。申込みは不要です。直接、図書館までお越しください。

日程は「図書館ホームページ」でご確認ください。



▲詳しくは
こちらから

お子さんも、図書館の利用者カードが作れます

このリストでご紹介した絵本の他にも、図書館には楽しい絵本がたくさんあります。お子さんのお名前のカードで本が借りられますので、初めてカードを作られる方は住所・氏名・生年月日の確認できるもの（マイナンバーカード、健康保険証等）をお持ちのうえ、お近くの図書館へお越しください。

「ふくぶくつうちょう」で読書の思い出を記録しませんか？

預金通帳のように袋井市立図書館で借りている本の情報（本を借りた日、書名、著者名、本の金額）を図書館にある専用の機械で印刷、記録できます（高校生以下は無料）。お子さんと楽しんだ絵本の記録を残しませんか。

